

奥州街道沿いのまち



江戸時代には仙台北下の曹洞宗四大寺院のひとつに数えられたが、度重なる火災にあった。現在は、都市の中の静かな空間として魅力的な散策の場となっている。



東八番丁 皎林寺 祀



南鍛冶町 泰心院 祀

勾当台にあった仙台藩藩校(養賢堂)の正門を移築



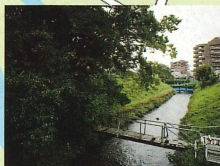
嘉永2年創業。戦争で一時酒造業務を中断をしたが「森乃菊川」醸造元として旧城下町で酒造りを続ける唯一の蔵元。



伊達家所有の飛び曼茶羅(日蓮聖人と弟子日興の合作)とそれを抱いた御輿が本堂天井に飾られている。年に一回虫払い法要の折、拝観できる。



明治5年創業の老舗門前酒造店の仙台軍筒の2博物館



広瀬川の愛宕堰から引き込まれた用水路で、南染師町界隈ではこの用水を利用した染め物が盛んに行われてきた。

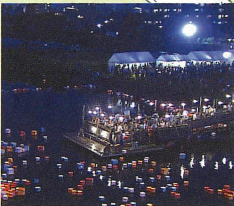


明治の初めに味噌醤油の製造業として創業、昭和38年まで営業。薬局を営んでいる現在の店は壁の模様美しい建物が店内には階段軍筒がある。

〈柵形〉外から来た敵の兵を待ち伏せて討つためにわざと道を鉤型に折り曲げて作られた道



明治18年創業の仙台駄菓子老舗。併設のギャラリーではあめ細工で作った駄菓子の歴史がわかるコレクションを展示。



日本名水百選のひとつ、広瀬川の宮沢橋と広瀬橋の間で毎年8月20日に行われる。数千個の色とりどりの灯籠が水面に美しい色を映し幻想的。祖先供養の折りが短い夏の終わりを彩る。



蒟蒻の粉と島モチの専売特許権を持っていた。江戸時代河原町木戸番をつとめた。



旧仙南堂薬店 仙台市景観重要建造物

